

所のたより

神奈川県第二宗務所

発行所

神奈川県横浜市神奈川区台町3-1

本覚寺会館内

曹洞宗神奈川県第2宗務所

電話 045 (322) 2417

FAX 045 (322) 2418

URL <http://kana2.jp>

Email: soto.kana2@gmail.com

所長ご挨拶

所長 龍昌院住職 石澤 昭信



管内御寺院様、御寺族様、御山内の皆様におかれましては御健勝のこととお慶び申し上げます。常日頃、宗務所行政に対しまして御理解と御支援を賜り心より感謝申し上げます。さて、昨年は自然災害の多い年となりました。特に台風十五号、十九号では各地に甚大な被害が出てしまいました。その様な中で昨年一年宗務所行事も大過なく勤めることができました。本年も役員一同新たな気持ちで職務に精勤する所存でありました。その矢先、コロナウイルス禍にみまわれてしまいました。このウイルスは今や南極を除く全ての大陸に拡大しまし

た。世界人口の三分の一以上に外出自粛が呼びかけられ、衝撃的な犠牲が出ております。人々は豊かで安全な自らの生活が崩れることなどないと思っていたかもしれませぬ。しかし、コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）は現実でありどんな人も影響を免れることはできません。今は一人一人が身を律して感染リスクの最小化に努めることが何より大事であり、事態の収束につながると思われまます。こうしている今も現場で頑張っておられる医療従事者、保健所職員、自衛隊員、警察官等、この異常事態の世の中を支えている全ての方々に感謝と敬意を表したいと思います。

御報告の通り四月から六月まで諸行事は中止、または延期とさせて頂きました。後期に予定されております諸行事につきましては無事に開催できますことを願っております。管内御寺院様にはお施餓鬼法要等、山内行持に際しましては

暑中お見舞い

申し上げます

宗務所職員

- | | |
|--------------|--------|
| 所長 | 石澤 昭信 |
| 副所長 | 梅田 保彦 |
| 教化主事 | 加藤 泰俊 |
| 庶務主事 | 鈴木田 浩之 |
| 梅花主事 | 香渡 規玄 |
| 人権擁護
推進主事 | 喜田 孝彦 |
| 書記 | 中野 琢哉 |
| 書記 | 大溪 俊将 |
| 書記 | 小林 大樹 |



ご挨拶

宗議会議員 泉龍寺住職 砂越 隆侃



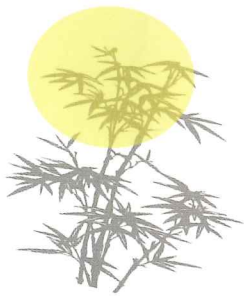
管内ご寺院様におかれましては、新型コロナウイルス感染症により心配な日々をお過ごしのことと拝察申し上げます。

昨年はたくさんさんの老師が遷化なされ、寂しい限りでございます。心よりお悔やみ申し上げますと共に、ご冥福をお祈りいたします。

今後、少子高齢化の影響で檀信徒減少、そして暮しまい、寺離れ等が進んでいくことが想像できます。今すぐには影響はありませんが、不安に感じているのは私だけでは無いと思います。特に若い世代の住職、副住職におかれましては、寺院の存続等難しい未来が予想されます。「今は影響ないから」と先送りしてはい

ば、時すでに遅しと……

そうなる前に今できることとは何かを宗門はもちろんのことと各寺院も真剣に考えなくてはならない時がきたと感じます。その一案として檀信徒に對してはもちろんのこと地域のの人々にも選ばれる寺にならなくてはと思います。その方法は、ハードの面、ソフトの面等たくさんありますが、一つ行えば良いというものではありません。またそれは一朝一夕にはできません。日々の積み重ねが大切と考えます。これからも管内ご寺院様のお力になればと努めてまいります。



ご挨拶

宗議会議員 宗三寺住職 服部 直哉



初夏の候、神奈川県第二宗務所管内御寺院並び御山内各位の皆様方におかれましては、日頃宗務行政に對しまして、御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

また、本年は2月からの新型コロナウイルスの感染が始まり全国緊急事態宣言も発令され自粛が余儀なくされ大変不自由な思いもされたと思われま

各管内御寺院に於いても法事の中止や延期、恒季法要などの中止と檀信徒の皆様はじめ人生において初めての事ばかりで、ご混乱された事と御見舞い申し上げます。しかしながら、第二波も予測されておりますので皆様方におかれましては引き続きの

感染予防をお願い致します。

さて、昨年は級階査定の年であり、各御寺院方の御協力も元、無事に終了する事が出来ました。これは一重に皆様の御理解があつてこそその結果であり、宗門護持の為に血税とも言える宗費を無駄なく有効に使うことにより将来の宗門の改革を執り行う糧として有意義かつ潤滑な利用と留保を考えなければならぬと襟を整える次第であります。

その為にも僧侶の育成を第一に様々なご意見を賜りたくぞんじます。

今、世界では禅「ZEN」が注目されております。

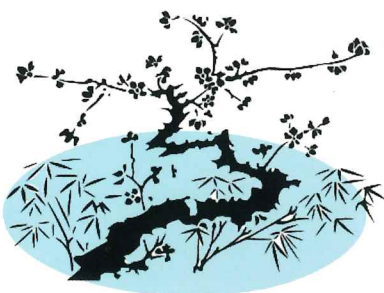
世界に目を向けると日本は無宗教という選択をする人達が多いと言われております。他国では考えられない文化に変わろうとしている中で、今、僧侶に求められている事を考え直す時では無いでしょうか。皆様の御意見、御教導を賜り今後の宗門の方策を模索し

て行きたく存じますので、多岐に渡る御意見を賜りたく存じます。

続きまして、宗門からの各宗門寺院へのアンケート等が配布されますが、ご遠慮なく今の状況をお伝え頂ければ幸いです。誠にありがとうございます。

これからの新しい生活の中で、新しい御供養の仕方を各御寺院で考えて頂き、お檀家さんを受け入れる状況や環境をつくり、安心、安全な寺院運営をお願いすると共に、檀信徒皆様の御理解、御協力を賜える様、重ねてお願いする所存でございます。

各御寺院様の山門の興隆と山内皆様の御健康と檀信徒の皆様のご健勝を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

青年同志会 会長

第一教区 萬徳寺 副住職

横山 和宣



神奈川県第二宗務所管内御寺院様には日頃より神奈川県青年同志会の活動にご理解ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。令和元年五月に青年同志会の会長を拝命させていただき、会の運営に対し反省の日々ではございましたが会員の皆様に支えていただきこれまでなんとか会長の任を務めさせていただきました。これも偏に管内御寺院諸老師のご理解あつてのことと存じます。重ねて御礼申し上げます。

当会は令和元年度人權研修会として七月に講師をお招きし、曹洞宗の人權問題へのかかわりについて改めて基本的なことを学び、一月には実地研修として国立ハンセン病資料館へ赴き、多磨全生園入所者の山内きみ江さんからハンセン病が発症した幼少時代から現在まで、自分が受けた差別行為や全生園へ入所する経緯など、ご自身の歴史に

ついて約四十分間お話を賜りました。近年高齢化などにより語りべの数が減少し、お話しを頂くのは難しいとのことでしたが、資料館の担当者様のご厚意で今回この機会をいただき、資料館も含め直接目で見てそしてお話を賜れたこと、特に質疑応答の時間をいただいたことによりハンセン病またその差別問題に対して見識を深めることができました。また三月には詩偈作法の入門編として漢詩の基本的なことについて勉強会をいたします。その他に球作務や暑氣払い、忘年会など会員相互の懇親を図る活動をいたしました。

令和二年度には関東連絡協議会親善ソフトボール大会と申しまして、首都圏九宗務所青年会が一堂に会し、ソフトボール大会をメインとしてお互いの活動の報告や懇親会を行う年一回の行事が控えております。今回はその幹事県となっており、新たに関連協実行委員会を設け令和二年十一月二十五日の開催に向けてただいま準備をすすめていますところでございます。その他にも二回目以降の詩偈の勉強会や食の安全に関する実地研修会など、まだ案の段階ではござい

ますが実現に向けて準備をしまります。これからも会員の皆にとつて有意義となるような活動を目指

し、この会がますます発展していきよう精進していく所存でございますので益々のご指導ご協力をお願いいたします。

布教教化研究会活動報告

第三教区 安楽寺住職 田島 道男

令和元年度第一回布教教化研究会が、五月三十日の十三時より宗務所会議室にて行われた。布教教化研究会は管内寺院を対象に布教教化に関する研修を目的とし、宗務所布教師、教化指導員(当初は青少年教化員)の有志を中心に企画、運営されている。第一回は平成二十八年六月に開催された。年二回の開催を基本とし、管長告諭や話し方の勉強などその都度内容を検討し、毎回三十人前後の方々が参加され高い評価を得ている。

七回目の開催となる今回は、特派布教師長尾寺御住職遠藤清門老師に管長告諭及び布教教化方針の解説を行っていただき、その後遠藤清門特派布教師、館盛寛行宗務所布教師をパネリストに、参加者による意見交換を行い研鑽を積んだ。

本年度の管長告諭は昨年度からの変更がなく、昨年の研究会に続き二度目の精読ができたことは理解をより深める機会となった。また布教教化方針につ

いては追加、変更箇所である、竿頭の先に未来をひらく、寺院を地域社会の縁を深める場に活かすという部分について集中的に解説していただいた。遠藤清門老師は法話時に心がけていることなど他の事柄についてもお話しくださり、そのなかでも坐禅について、コップと泥水を例にした説明は大変分かりやすく、改めて例話の大切さを認識させていただく機会となった。その後、参加者から質問を募り意見交換を行った。坐禅の功德とはなにか、坐禅をすることで心を安定させるというのは習禅ではないのか、宗門の坐禅の特徴をどう説いていくのか、布教教化方針における先祖供養の位置づけは、など多くの質問が出て、活発な意見交換が行われた。

自分は布教教化研究会には第一回目から参加している。布教教化に関する研鑽の重要性は常日頃感じているところだが、日々の業務に忙殺されていることを言い訳に集中して勉強すること



を怠りがちだ。そのようななか、本研究会に参加すると同世代の方々の参究の深さに刺激を受ける。また宗務所布教師の方々に準備会議の時も含め毎回多くのことを学ばせていただいている。改めて、今後も本研究会の参加を続けていきたいと思う。

なお、令和元年度第二回については令和二年二月二十七日に坐禅を好きになつてもらおうにはというテーマにて予定していたが、新型コロナウイルスの影響を鑑み中止となった。

現職徒弟研修について

第四教区 祥泉院副住職 竹田 円法

令和元年度の現職徒弟研修会に参加しました。青年同志会の問題提起とグループディスカッション、本庁派遣講師による仏祖正伝菩薩戒の教え、曹洞宗の展開と地域社会について講義をしていただきました。青年同志会の問題提起では墓地における現代の埋葬方法についてディスカッションを行いました。祥泉院では埋葬方法として樹木葬や散骨は行っていないませんが、埋葬したものの後になって後悔したと、相談にくる方がおり納得した上での埋葬方法を勧める難しさを感じました。



3つ目の曹洞宗の展開と地域社会の議題については、地域の方との関係が希薄になっている現代で祥泉院として取り組んでいることを考えました。隣接している保育園、老人ホームと連携して年に数回のイベントを企画しています。春祭り、みたままつりや法堂を使用したバイオリンコンサート、落語会を開き地域の方をお招きし開かれた関係を築けるよう工夫をしています。春の陽気がいい日には保

育園児と老人が合同で行う体操へも近隣の方が参加できるようにオープンなものにしています。老人ホームのホールを貸出し、月に一度未就学児の交流会を行い、孤立しがちな子育て中の保護者同志が和気あいあいと話をして、子どもとの触れあい方を学べる場所として提供しています。また座禅会と写経会を行います。

の方が参加して下さいます。このように今後も地域の活性化のために、さらに祥泉院が一緒に親しみやすい地域のお寺として気軽にお参りしていただけるお寺として地域に貢献し

ていけるよう努めようと思っております。様々なことを考えるきっかけとしてとても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

情報交換の場と教化活動

第十教区 福昌寺住職 加藤 道英

去る八月二十九日、大雄山最乗寺に於いて現職徒弟研修会に参加致しました。私は法務の関係で、駒澤大学前学長 寿徳寺住職 廣瀬良弘老師による「曹洞禅僧の授戒会と葬儀活動」のみの拝聴でしたが、とても丁寧な解説を頂戴しました。

意味は勿論、各方面からたくさん集まる戒弟同志の情報交換の場であったことが伺える内容でした。さらに授戒会を行う上で、道号や位階は授けず、「戒名」の二文字のみを授けていたのが圧倒的に多かったようです。

冒頭、廣瀬老師より、いわゆる曹洞宗僧侶の伝記は江戸時代初期に確立され、さらに中期に於いては書面で完成されたという、祖師方から代々脈々と受け継がれた曹洞宗の重要な書物の数々を、出版編集に携われた関係各老師に感謝の念に堪えませ

さらに頂いた資料を拝読すると、十四世紀半ば頃までは坐禅や宗旨に関する記載が多く、十五世紀初頭からは引導法語の記載が多く占めるようで、次第に禅の説法から引導法語へ変わっていったとの事でした。

講義の中で、特に授戒会の話が大変興味深く、戦国時代の曹洞禅僧の間では、積極的に授戒会を行っていたことをご紹介頂きました。仏弟子となる本来の

私は、ご縁を頂いている檀信徒へ授戒会の説明は、恥ずかしながら積極的に行っておりませんが、情報交換の場、コミュニティの場ととらえるのであれば、毎週日曜日に開催している坐禅会を通じて、調心調息調心の意義を説きつつ、座談会では情報

交換の場として大いに利用していきたいと思っております。又、引導法語の作成は、未だに苦手な分野ですが、葬儀・特に通夜法話を通じた教化活動に努めて行きたいです。



人権擁護推進移動研修会について

第三教区 西光寺徒弟 山中 智仁



昨年十一月二十一日に実施された人権学習会に参加させて頂きました。

今研修は、ハンセン病に関する内容で東村山にある国立ハンセン病資料館に行き、当時の資料などの展示物を拝見しました。

ハンセン病は日本古くから存在するらい菌と呼ばれる感染症で、現在では発症自体が稀であり発症しても治る病気です。初期症状は皮疹と知覚麻痺で、進行すると手足・顔などの変形が生じ、治っても重い後遺症を残します。不治の病や遺伝病、怖い病気として社会から嫌われ差別や偏見に繋がり、地域社会だけでなく国家主導で人権侵害が率先された過去がありました。国は明治四〇年、ハンセン病対策の一環として患者を療養所に隔離しました。後に、一生療養

所へ患者を収容することに方針転換しました。「療養所」という単語と実情は異なり、あたかも刑務所のような施設でした。展示物を拝見すると、外出の禁止・出産の禁止、労働の強要、職員に懲戒権を付与するなど、病人扱いではないことが明らかになりました。収容されると、今まで住んでいた家は白い作業着を着た人に徹底的に白粉で消毒され、近所から遺伝病との差別や偏見の対象となりました。治療薬が誕生してからも国は社会復帰を認めず、平成の時代によくやく法律を廃止し昨年、安倍総理大臣は国の過ちを認め差別・偏見の根絶に努めることを公に発信しました。様々な資料から、長期による患者とその家族に対する差別・偏見を国家主導で行っていたことに驚いたことと共に、日本独自の信仰・時代背景からこのような差別・偏見を生み出してしまったのだと感じました。ハンセン病患者は家族から「二度と帰ってくるな」

と言われ、地域社会のみならず身内からも差別されてきました。発言した方も、された方も頼れる人がいないことは辛かっただろうと思います。医学の発展に伴い今現在では、ハンセン病がどのような病気で治る病気であることを知っています。どのようなことでも、知っていれば「見方」は変わります。現代は昔以上に様々な見方があり、誤った見方を正すことは容易ではないと思います。そのような環境の中で、正しいことを伝えること・見てもらうこと・周知することが大切なのではないかと思えます。その上で、患者を患者として見るのではなく、一人の人間として認めることが人権を理解する際に大事な考え方になると考えました。人権問題について新聞ではたった数行の記事で語られていますが、その中身は大変な苦労や辛い思いをされている人がいることを資料館へ行き感じることができました。まだ知らない人権問題が多々あると思いますが、一つ一つ興味を持って理解し各々がその問題に對してできることをやるべきだと思います。



群馬の名刹で貴重な体験
第二宗務所檀信徒研修に参加して
 第三教区 東泉寺檀信徒 小泉 元

ドーンドーンドンドンドンドン。祈禱殿の静寂を破り、腹の底に響く大太鼓の合図。曹洞宗神奈川第二宗務所檀信徒研修のメイン・イベント、ご祈禱の始まりです。

ここは群馬県の沼田市にある天狗の霊峰、曹洞宗の迦葉山弥勒寺(かしようざんみろくじ)。このお寺はふもとの沼田市街から、美しいもみじの紅葉を見ながら、つづら折りの急坂を、バスも喘ぎあえぎ二〜三十分も登ったでしょうか。市街より十六キロに位置する関東の霊域です。

開創は嘉祥元年(八四八年)との事。徳川初代将軍祈願所として御朱印百石・十萬石の格式を許された由緒あるお寺です。

ご本尊の前に座りご祈禱を受けましたが、大導師の御席は、普通の住宅の二階と思える程の高さにあり、ご本尊様は更にもっと上に鎮座されている為、とても拝顔する事は出来ませんでした。それだけになお、有難みが増したのは、私だけではなかつ

たと思います。

大導師がお座りになっている左右には、このお寺のシンボルでもある大きな鴉天狗様の立像が、阿吽の姿で私たちを見下ろしていました。祈禱殿正面入って左にも顔の丈六・五メートル、鼻の高さ二・七メートルの巨大天狗面が奉納されていて度肝を抜かれました。

ご祈禱の中の般若心経は、リズムカルな太鼓の音が入って、何か新鮮な感覚と親しみさ、さえ感じ貴重な時を頂きました。

そのほか今回の泊りは伊香保温泉。素晴らしい温泉と、夜の宴会で盛り上がりました。

また水沢観世音参拝、日本の酒造会社、ワインのワイナリー、日本最大級の私設博物館「伊香保おもちゃと人形・自動車博物館」の見学、名物水沢うどんの昼食などなど、盛り沢山の楽しい一泊二日の研修旅行でした。

小生も古希を過ぎました。今回ご縁をいただき、貴重な研修に参加出来たことに感謝しつつ、次回も参加出来ますよう、日々健康に精進したいと思います。



檀信徒研修旅行(迦葉山)

檀信徒研修旅行参加感想文

第三教区 東泉寺 檀信徒 長岡 肖朋

11月13日午前8時45分に本厚木駅前まで横浜発のバスに合流し出発しました。

永平寺京都渡月館を皮切りに信州上田城、昨年は台湾と檀信徒研修旅行に参加させていただきました東泉寺にお世話になっていきます川崎市多摩区菅稲田堤に住む82歳になる長岡肖朋と申します。若い頃より旅行が大好きで今でも一人旅の温泉めぐりをしております。

さて、今回東泉寺より「旅の感想を」と執筆依頼され書いてみましたが見苦しい文章ですがお許しください。

11時ごろ駒寄パーキングに休憩して群馬県前橋の表示を見て昔のことですが、登山のことが思い出され女性とはじめてお目にかかり一晩泊り翌日彼女と大峰山に登山したロマンチックな50年前の記憶が甦りました。

更に今度は幼友達と荒船山、妙義山に登山し、下仁田に下山した思い出がいろいろと浮かんできました。

バスは本日のメインである迦葉山弥勒寺に到着しました。一番

高い所よりご導師が上殿されている時に太鼓の音が「天狗、天狗、天狗」と天狗の声に聞こえてギツクリと聞いていたら「東泉寺 長岡肖朋」と読み上げていただき、天狗に届いたなと実感しました。

女坂からきたので今度は男坂階段をおりてきましたら、真田伊賀守の立て札に会い一昨年の信州上田城真田のお城を思い出し、群馬県の真田一族の城取物語が浮かんできました。

水上温泉で昼食となりましたが、ここでは最初の彼女に振られた昔々の物語を思い出しました。

伊香保温泉に到着し豪華なホテル木暮でのお泊りですが、最近お目にかかれない豪華な庭園風呂に目を奪われて夕食の時間に遅れてしましまして申し訳ありませんでした。

11月14日9時にバスが出発して女性を守る観音様として有名な水沢観世音を参拝し、私設では日本最大級の博物館「伊香保おもちゃと人形自動車博物館」を案内されました。子供のころの駄菓子屋さんにありました俳

優のプロマイド、驚くほどの種類蒐集には懐かしさを思い起こしタイムスリップしました。また自動車のコレクションには驚かされるばかりです。

最後はしんとうワイナリーでしたが、「榛東」の漢字が「しんとう」と読むのかと気が付きました。

この度の旅行では名鉄観光の添乗員山崎さんには、女子大生を感じる初々しいサービス精神、本当にお世話になり旅の良い思い出となりました。また東泉寺様をはじめ宗務所職員の皆様方には、お世話になりましたことお礼申し上げます。

昼食は名物水沢うどんを皆さんと一緒に食し、お土産買いに夢中になりました。

最後に「榛東」の漢字が「しんとう」と読むのかと気が付きました。

最後に「榛東」の漢字が「しんとう」と読むのかと気が付きました。



檀信徒研修旅行（水澤観音）

婦人会研修会に参加して

第五教区 雲昌寺檀信徒 帯刀 早苗

秋涼の候 金木犀の香りの漂う中、婦人会の研修会に初めて参加いたしました。

バスの中、会長さんのご挨拶の後、一同で台風で被災された方々に「追弔御和讃」をお唱えして、お見舞い申し上げました。

初日、川越大師喜多院でお坊様の案内で本堂、五百羅漢を拝見いたしました。五百羅漢は長い歴史の中、ひっそりとたたずんでいました。幼な子を抱いた母親の「らかん」さんが印象的でそと、顔に手を添えました。

二日目はバスの中で、会長さんの音頭で「佛の子供」など4曲を歌いました。とてもなつかしく、優しい気持ちになりました。

回廊型の「ホキ美術館」では写実の美しさの世界を楽しみ、その後イタリアンランチをおいしくいただきました。あわただしい時を過ごしている私たちにとって至福の時間でした。

会長さんをはじめ、役員の方々、台風の後いろいろとご苦労なされたと思います。おかげ様で他のお寺さんの方々とお話

交流ができて有意義な一泊二日の研修会でした。

ありがとうございます。「井の中のかわず」にならず、足腰、そして頭の方もきたえて、元気で今後も研修会に参加したいと思います。

川越大師喜多院



五百羅漢



ホキ美術館



詠範会の活動

詠範会会長 第八教区 鳳勝寺寺族 山下 知子



か？役員一同知恵を絞っている所です。

最近、梅花講員の高齢化が進み講員の減少傾向に繋がっています。

その為にはまず講員の指導者である詠範が研鑽を積み、親睦を図りながら様々な情報を共有、交換し梅花を通じて正しい信仰に生きる大切さを知り、日常の中で梅花の心を生かされる方を増やし、講員と共に梅花の輪(和)を広げて行ければと思っております。

御協力、御鞭撻の程よろしく
お願い致します。

又その活動資金は宗務所からの助成金、管内の梅花講のある寺院約七十ヶ寺(休講の寺院も含む)からの賛助金で成り立っています。大勢の方に活動を支えていただいております。感謝申し上げます。

梅花講習会では県内外から講師をお迎えして、毎回二十五名前後の詠範さんが参加して下さり、梅花への思いを胸に講師の先生のお話熱心に耳を傾け一生懸命勉強しています。せっかくの機会なので更に参加者を増やす為にはどうしたら良いの



梅花流全国奉詠大会に参加して

第一教区 禪林寺寺族 菊地 啓美

令和元年度梅花流全国奉詠大会が「熊本地震からの復興」を祈念し、五月二十二日から二十三日にグランメッセ熊本にて開催されました。

会場までの道中、土砂崩れで崩落した阿蘇大橋は既存の場所から新たに代替道路の開通に向け工事が進められていました。また甚大な被害を受けた益城町では、震災から三年経っても尚処々被災時の状況を物語る光景が残っていました。一日も早い復興が望まれます。

大会では、被災された方々をお招きし、熊本地震・自然災害物故者追悼法要が営まれました。各地区からの大勢の参加者による登壇奉詠は、練習風景や地元からのメッセージの映像が流された後、講員の皆様と丹念に練習を重ねた成果が披露されました。また、竹灯籠で演出された幻想的な舞台での迫力ある民謡「牛深ハイヤ節」。地元ゆかりの水前寺清子さんによる魂に響く歌声、熊本城おもてなし武将隊による力強い演舞は、郷土愛にあふれとても感動しました。さらに、中国・雪竇山資聖禅寺の皆様の実験的な奉詠は、厳かで印象的

でした。最後は会場全体による「まごころに生きる」の大合唱で幕を閉じました。この様な細部にまで心の行き渡った素晴らしい大会に参加できました事に感謝いたします。

ました。梅花でのご縁を通じお稽古に励む傍ら、折に触れて寺族の皆様にはたくさんのご助言やお力添えをいただきました。その事に今とても支えられています。このご縁を大切にこれからも精進してまいります。そして、一番近くで見守りいつも温かく応援し、大会に参加するにあたり快く送り出してくれた家族にも感謝を忘れず、一日一日を心して過ごしてまいります。



グランメッセ熊本



大慈寺

この一年

第八教区 龍昌院寺族 石澤 博美

日頃より寺族会へのご協力をありがとうございます。時の流れは早いもので、寺族会も新たなメンバーでスタートを切り、1年が過ぎようとしております。この1年を思い返しますと、社会ではさまざまな事があり、また、初夏、生命力に満ち溢れ、萌え出だす緑の中で迎えた今上天皇のご即位、そして改元。どなたも清々しく、気持ちも新たに令和時代を迎えられたのではないかと思います。そして秋、大きな台風は惨禍をもたらしました。生活に豊かな恵みをもたらしてくれる雨、そして身近な川が、現代社会に大きな力を見せてくれたように思います。整備され、高度な設備や技術を持つわれわれの生活環境においても、大いなる自然の力を前にしては、ただその威力に呆然と状況が収まるのを待ち、また少しでも被害が少なく済むようにと祈るしかなかったのではないのでしょうか。首都圏に住み便利・快適である事に慣れた私たちも、まぎれもなく自然の一部である事を気づかされる経験でした。

自然の力を活用し、その恵みを受用して生きるわれわれは、自然の上に立っているのではなく、自然の一部として共に生きている。草を手折り、虫を殺すのは、人間にとってはたやすいかもしれないが、同様に大自然はやすやすと生活や命を流し去ってしまうのです。あたかも地球に君臨するかのように見える人間や文明も、測りえない大いなる力の前では、小さな力しか持たないのだという認識を、あらためて感じる出来事でした。こういった大きな出来事も、情報の流れが速い現代においては、いつの間にか生活にかき消されて行くものです。しかし、宗門にある私たちは、自然の力、人間の力に思いをはせ、発信していくべきではないかと思えます。どんなに高度に発達した技術や環境に囲まれていても、人間も自然の一部である事を忘れずに謙虚に生きる。深山幽谷に身を置き、生活のすべてが修行であると自らを律し続けた道元禅師の足跡を思い起こし、その生き方や思想、み教えに蓄えられた知恵を現代のライフスタイルにどう活かす事ができるのか考え、一般の皆さんに分かりやすく発信していく事こそ、令和時代の私達のなすべき事ではないでしょうか。一人ひとりの力は

小さくとも、お互いに支えあい協力すれば、困難や苦痛を穏やかにする事ができるはずですよ。

ラグビーワールドカップの激しくも爽やかな戦い、素晴らしい興奮を記憶されている方も多いでしょう。その中で最も心に残った光景のひとつは、台風被害に遭った街の片づけを無償で手伝う外国ナショナルチームの姿でした。「困った人々を助けたい」とごく当然であるようにふるまった彼らの姿、そのボランティア精神の発露は自然で、人々を元気づけ、心をひとつに繋いだと感じます。

大量に作られては大量に廃棄される商品、食べきれないほど用意される食品。安価に商品を作り大量に流通させるために危険で過酷な環境で働く人、草原や太陽を知らずただ人間の胃袋を満たすために育てられ屠られる家畜、それなのに加工しては捨てられる食品も多い現実。強烈な台風をはじめ『異常気象』と呼ばれる環境の変化は現実化しています。自然環境を大きく変える影響力を人間が持ちえた今こそ、道元禅師の実践した思想や生き方が人々の支えになる可能性があるのではないかと感じます。新しい時代に、僧侶、寺族皆さんお一人お一人がそれぞれお考えいただき、地域の人々の支えとなっていくべきだと念じております。本年も寺族会へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



袋井市可睡齋



森町大洞院

「使い方は生き方」常に意識の中に

第三教区 秋月院檀信徒 安田 しげ子



令和元年度特派布教会にて、青森県善竜寺住職清野暢邦老師による法話と桂米多朗師匠の落語をお聴きする機会を頂きました。

法話は管長告諭から始まりました。多くを求めてしまう生き方を見つめ直し、自己をつつしみ、ともに思いやり、分かち合う心豊かな社会。正に理想であり、あなたに向けての言葉よと言われているようです。が、それが難しい。心やすらかに生きるということは難しいです。

「使い方は生き方」は清野老師による法話の表題です。

特に印象に残った話は、清野老師が東京での大学生時代のお話です。居酒屋で同郷の友人と話していらした際、たまたま居合わせた青森出身の年配の方と話が盛り上がったそうです。若者達の方言を聞いて、懐かしいと思われたのでしょうか。自分の若い頃と重ね合わせたのでし

う。学生達が帰る時には既に会計済となっていたそうです。男気ある！と思った私です。黙ってというところもです。恩を着せる訳でもなく、自然とそのような思いが行動に。心が自然とそうさせたのでしょう。神奈川県出身で神奈川県育ちの私は同郷の想いというものを実感したことはありませんが、心が自然とそのように向かわせた事は分かる気がします。私の拙い文章では清野老師の話された臨場感が伝わらないのが申し訳ないです。老師のお話はその場その場の場面が頭の中に浮かび来るので、涙腺の緩くなる年代の私は片手にハンカチでした。

桂米多朗師匠の落語は「名工浜野矩随」聴いたことのある落語でしたが、演芸場での落語とは少し趣が違い、講義を聴くような多少の緊張感と共に聴き入りました。温かい結末にまたまた涙腺が緩んでしまいました。死ぬ気になってやれば人間は変わることができるとい



ではなく、その陰には「河童のような狸」の作品でも買いつてくれる若狭屋さんの優しき、協力があつてこそその賜物。生きていく上で他者との係わりは大切です。
なんて細かいことを並べないで単純に笑って落語は聴くものと言われそうですが。
今回秋月院さんとのご縁で思いがけなく法話を聴く機会、プラス落語も聴けるチャンスに恵まれました。感謝いたします。ご縁を大切にしたいと思います。そしてまた来年、心穏やかな中で特派布教会に足を運ぶことが出来れば幸いです。ありがとうございました。



桂米多朗師匠



青森県善竜寺住職 清野暢邦老師

「花供養御和讃」の調べに乗せて

第一教区 本覺寺梅花講 森 基夫

私が梅花流御詠歌に出会ったのは、四年前に行われた本覺寺の花祭りでした。その時に初めて奉詠された御詠歌を聴かせていただきました。その音色が心の奥に沁み込み、とても心が落ち着くを感じました。今までがむしろやりに働いてきた私にとって、御詠歌がとても新鮮で、心安らぐものとして興味が湧き始めました。

それ以来、月二回のお稽古に通わせていただいております。私は、本覺寺梅花講の中では、経験が少なく、未熟にもかかわらず、管内奉詠大会のような大きな大会で、献花という大切な役目を仰せつかり、とても不安でした。しかし、詠範会の皆様のできいかな音色に包まれて足が自然に動き、無事に終了することができました。これからも稽古に励みながら、梅花流詠賛歌を楽しんでいくつもりです。

献花をお受けして

第一教区 西有寺梅花講 山田 實

第四十七回梅花流管内奉詠大会に献花を仰せつかり、事前に本覺寺さんに於いて練習を重ね、当日はとにかく落ち着いて背筋を伸ばし、しっかりと心掛けることにしました。

七月に亡くなった息子に頼むねと言つてリハーサルに望みいざ本番、花供養御和讃のお唱えと同時に相手の方と歩行を合わせ、作法に法りお花をお渡しし合掌して退場する時は、何か

暑い物がこみ上げて堪えるのがやつとでした。息子から「頑張つたね、お母さん」と言われたような、そして心身共に浄化された様な気がしました。この様な機会を与えて下さった事に心より感謝しております。ありがとうございました。又帰りは献花した花束を頂戴し、早速お供え報告しました。

今迄は毎年季節の変わり目になると風邪引きで一週間位寝込



んでいたのですが、五年前、梅花流詠賛歌に出会ってからは健康で病気知らずです。これも一重に梅花流詠賛歌のおかげかと思っております。これからも、今日のこの感動を胸に一層楽しく励んでいくつもりです。

又、お寺さんでは、お坊様方素足でおられるのを見習い梅花を始めてからは、家の中では一年中素足で過ごしています。健康に役立っている事実感じています。

第四十七回梅花流管内大会

第一教区 本覺寺梅花講 笠原 冽

鶴見大学記念ホールに於いて令和元年十一月七日 第四十七回梅花流管内奉詠大会に神奈川県第二宗務所本覺寺梅花講代表として献花を承り、誠に光栄な機会を得ることが出来ました。

当日までは心配と不安と緊張の日々でした。当日のリハーサルでは、気持ちを「沈ませて、沈ませて」、歩調を合わせて「ゆっくり、ゆっくり」、所作は「美しく、美しく」、と自分に言い聞かせました。普段何気なく歩いていることが、それを意識して行うことの難しさを改めて知りました。本番になると、開き直りか心身共に落ち着き、献花をいたしました。献花中は世界中の争い、貧困、不幸が無くなり、穏やかで安定した平和がもたらされることを祈り、心の中で仏様に手を合わせました。私は梅花



を始め約十数年、素晴らしい仲間に出会い、ご指導いただいた先生方のお陰でここまで梅花を続けることが出来ました。今回は、長年続けてきたご褒美として献花をさせて頂いただけでものと思っております。これから一層精進し、もつとこの梅花講を大勢の方に知って頂くことを強く願っております。

この度、第47回梅花流管内奉詠大会に献花させて頂いたことになりました。これは私にとつて、とても記念になるすばらしい事と思います。

献花は十数年前に一度、亡き母と一緒にさせて頂いたことでした。まだ元気だった母と左右に分かれてさせて頂いたこと。その時はまだ少しばかり若くて、ちゃんと歩けました。今は背中が曲がっていて皆様にどう写るのか不安でしたが、宗務所の方

献花のお役をいただき

第一教区 西有寺梅花講 城 さち子

に親切に教えていただき、どうか無事に済みました。御詠歌が大好きだった母が後押ししてくれていると思ひ頑張りました。

今でも追善供養御和讃を聞く胸が熱くなります。

このようなすばらしい大会に献花が出来ましたことを、み仏様に心から感謝いたします。そして皆様に応援をいただき、ありがとうございます。



献花をされた皆様



保護司の19年間を振り返って

「法務大臣賞受賞」

第五教区 倫勝寺住職 馬場 義實

「地区の保護司さんが辞めてしまつて困つてるんで、方丈さん、やつてくれないかなあ」

知り合いの石屋さんからざつくばらんな口調で口説かれたのは、年末の忙しい時期、境内のトイレを掃除していた時でした。

私が生まれ育ったところは山形県の内陸地方、田んぼの広がる田舎の村。平和な村でした。保護司が関わるような事件や事故も殆どなく（実際はあったのでしようけれど）、子供の私は何も知らずにのんびりと育ちました。ですから保護司のなんたるかも知らず、困ってる人がいるならじゃあ一肌脱ぐかと能天気

に受けてしまったお役目は、驚きと戸惑いと失意と怒りというんな感情が入り混じる、鬼平犯科帳の長谷川平蔵を夢想していた私にとっては想像以上に大変なお仕事でした。

2001年2月11日に辞令をいただき、戸塚区の保護司として活動を始めることになりました。最初に引き受けた対象者はまだ15歳。中学を卒業したばかりの子供でした。夜遊び、万引き、

窃盗で補導され、親元の住む都内を離れて戸塚区に住む知り合いの土建業の親方に預けられた子でした。

初めての対象者でしたからこちらも意気込んで相手をしたのですが、かえってそれが良くなかったのかもしれない。兄貴分の同僚に連れられて面接に来るのですが、向かい合つて席

についても何もしゃべらない、泣きそうな顔をして下を向く、押しても引いても上げてても下げててもただ黙つて時間を過ごすだけ。たまに喋れば「この前、朝方に駅前と同じ年頃の地元のヤツらにからまれた」「親なんか嫌いだ」。心の内を知ることなどとてもできない状況が続きました。

観察の終わる20歳すぎまでのままか：とうんざりしていたところ、親方から本人がいなくなつたと急報がありました。観察所に連絡し、東京下町に住むご両親に会つて状況を説明し、と慌ただしい中に心配が募る日が続きました。

その後10日ほどして都内で自転車窃盗の現行犯で補導され、

また戸塚に戻されることになったのですが、彼はその後仕事先からの逃走を繰り返し、結局両親が引き取るという形で都内の保護区に担当変更となり私の最初の保護観察は終了となりました。

あの時あんな対応をしていなければ、こういう話し方があつたのではなかつたか、もう少し自分に怒りをおさえられるだけの自制心があれば：いまでもこの事案が悔やまれてなりません。

あれから19年。私も長年お勤めさせていただいたご縁で法務大臣表彰などもいただけるようになりましたが、いまだにこの案件が心から離れません。彼が元気でいれどもう34歳になつて

いるはずですが。今どのように暮らしているのか、良い方向にいっていればよいが、まさか反社会集団に：などいろいろと考えてしまうこともあります。

2038年9月30日が私の保護司定年の日になります。あと18年。最後の時まであの少年のことは忘れられないでしょう。いや、忘れずにいなければならぬのだと思います。



福寿会



恒例の福寿会（70歳以上の諸老師方をお祝いする会）が11月28日横浜ベイシユラトンホテルにて開催されました。会員諸老師とともに宗議会議員老師、教区長老師、宗務所役職員が参加しお祝いしました。

米寿

7 教区	寿昌寺東堂	平沢 信雄老師
7 教区	乗福寺東堂	中津川文英老師
8 教区	安養院東堂	中村 徹雄老師

喜寿

1 教区	正福院東堂	山本 尚亨老師
4 教区	朝光寺住職	雨宮 繁道老師
4 教区	法道寺東堂	赤星 建一老師
6 教区	大善寺住職	大津 豊隆老師
10 教区	宝泉寺東堂	都高 真道老師

住職65年勤続表彰

9 教区	天應院住職	西野 和男老師
------	-------	---------

住職50年勤続表彰

4 教区	長昌院住職	水上 弘禪老師
6 教区	東福寺住職	山田 哲也老師

住職40年勤続表彰

5 教区	徳翁寺住職	安藤 文正老師
8 教区	龍洞院住職	菅野 禪海老師
9 教区	龍像寺住職	倚水 映能老師

住職30年勤続表彰

7 教区	宗賢院住職	瀬戸 良光老師
10 教区	増珠寺住職	菊地原和彦老師





曹洞宗関東管区教化センター

〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-6 東光寺内

TEL: 048-648-5751 FAX: 048-648-6120

E-mail: info@soto-kanto.net

ホームページ: <http://www.soto-kanto.net/>



DATA・印刷・製本

株式会社 エスコム

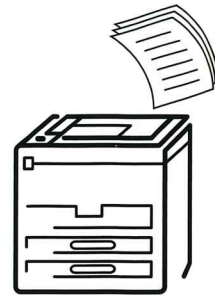
〒216-0015

川崎市宮前区菅生2-23-7 青木ビル1F

TEL 044-977-3746

FAX 044-976-0389

E-mail: k-kimiko@mbr.nifty.com



※ 血脈印刷承ります。包紙、血脈たとう紙(大礼紙)50組より～



編集後記

本日緊急事態宣言が発出されました。これからどんな未来が待っているのでしょうか。

昔の漫画や、映画ではたくさん便利な物ができた明るい未来を想像した作品でした。それが現実になっていることも多々あります。私が思うに作家の方は無意識のうちに未来を感じ取り、作品に表現しているのではと考えます。昨今のアニメや映画で題材にされているのは、自然破壊、環境汚染、ロボットとの戦争があります。怖いのですが、安心していただろう。「そして人類は滅んだ」というエンディングを見たことがありません。みんなで力を合わせれば必ず明るい未来になります。

修証義で「愛語能く廻天の力あることを学すべき」とあります。愛のある言葉、正しい言葉、前向きな言葉を日常生活で使うことによって世の中を変える力があることを学ぶべき。今それを実践すべき時ではないでしょうか。

英語の「Even if I knew that tomorrow the world would go to pieces, I would still plant my apple tree.」(たとえ世界が滅びようとしても、明日私はリンゴの樹を植える)」

もちろんここで私は滅亡の話をしたわけではありません。むしろこういう状況になっても希望を捨てないということ。明日のために希望を持って今日を過すこと。明日のために

私は今まで通り、朝、豊川 祐 祐 眞天様の前での祈禱では皆様の幸せを祈り、本堂のご本尊様前での朝課では物語者の菩提を弔い、晩課は一日無事に過ごせたことを感謝の思いで勤めていきます。

この「所のたより」が皆様の手元に届く頃には、明るい未来への光が見えていることを祈っています。

教化主事 加藤